

講演をさせて頂きました。

2023年5月12日（金曜日）PM4時から得意先の栗原木工様主催のインターンシップ事業のお手伝いをさせて頂きました。場所は大阪府寝屋川市幸町26-12に有る大阪公立大学工業専門学校 本校 専門棟3階都市建築デザインスタジオです。受講者は4年生6名と3年生2名、男性6名・女性2名です。年齢は20歳前後です。

栗原木工様主催のインターンシップの内容は三次元に関係する物作りだそうです。この内容は凄く興味はありますが正直非常に難しいので割愛します。

服部雅章の役割は、インターンシップ授業の補足の為に必要な木の話をして欲しいというご要請でしたので、下記の4つに絞って子供達の前でお話をさせて頂きました。

* 木と材 * 森と林の違い

* 辛→幸は木の関係者の仕事で有る * 一般材とその他

お話をする前に下記の3つもお話させて頂きました。

* 学問的な話は学校で学んでください。

* 材木のプロフェッショナルの話です。

* 将来の日本の木作りの仕事をして頂く為に、少しでも役立つと思い今回の講師をさせて頂きます。

具体的な小生の話の内容は栗原木工さんのインスタ等で取り上げられると思いますのでそこで確かめてください。

子供達から最後に拍手を頂いた事が凄く嬉しかったです。栗原さんの社長・専務に喜んで頂きました。高専の先生達6名に囲まれ、多少緊張した事は事実ですが、手の平に人と言う字を書いて飲み込んだらと弊社の女性スタッフにアドバイスを頂いたのもその通り行った事で緊張感が納まったのではと思います。



北海道出張

小生は、秋から冬そして春までが北海道出張のスケジュールです。従って5月末は大阪で仕事をしているのが日常ですが、今回の出張の目的は50年以上お付き合いのあった方が本年2023年1月21日にお亡くなりました。御仏壇に手を合わせるのが目的でした。

その方は賀集産業の山口一松さんと言います。小生が初めて北海道に出かけたのが15歳の夏でした。今年65歳になりますので実に50年間のお付き合いがありました。

過去の出張中の思い出のお話をさせてください。今は閉鎖した帯広の銘木市に真冬の夜に旭川から移動するのですが、日勝峠を通ります。(当時は今の様な高速道路網は無かったのですが、スパイクタイヤが禁止になっていなかったから夜でも移動が可能でした。日勝峠に着く前に鹿の親子と出くわしたりしました。山口さんは鹿と衝突すると鹿も死ぬが人間も死ぬから凄く用心が必要だと運転中何度も小生の耳に入れてくれた事を鮮明に思い出します。また日勝峠に着くとお手洗いにいくのですが100%町の明かりが無く100%近く雲が無い夜を何度も見せて頂きました。空がほぼ全て星の輝きなのです。その輝きの美しさを現在見ることは危険(スパイクタイヤからスタッドレスタイヤに変わったから)です。もう二度と美しい天空の星空を見ることは無いと思います。

次に帯広の広尾と言う町に堀田と言う材木屋がありました。日高山脈の西側に賀集産業があり、堀田木材は日高山脈の東側に有ると言うロケーションです。当時の服部商店は西側カツラ材を扱っていましたが、堀田さんのカツラ原木にはあまり興味はなかったのですが、賀集産業と堀田木材は商いをしていたので服部商店は賀集産業から東のカツラ材も扱っていたのかもしれませんが、堀田木材の土場で事細かく説明して頂いた記憶がありません。

また原木の出材が少しずつ減りかけていた時期には、賀集産業から車で3時間もかかり携帯電話もつながらない日高の山奥の営林署の公売にも連れて行って頂きました。現場に着くまでに曲がりくねった川を何回もランドクルーザーで上がると、薄暗い森の奥にきちんと積まれた広葉樹原木がありました。この貴重な経験が小生の血の中に流れています。

ところで服部商店のホームグラウンドは札幌地区ですが、ホームグラウンドは賀集産業だったのです。旭川に出かける時も賀集産業から出発していました。様々な冬場の移動に賀集産業の山口さんにお世話になったと思います。その陰には勿論小生の父服部良昌の影響が物凄くあったことも事実です。山口さんに北海道の業者と違う原木の見方等をレクチャーしていた事実も有りました。山口さんは心から服部良昌を尊敬してくれていたと思います。

北海道の森に木が無くなってくると、亡き父は私達に口酸っぱく言っていました、この情報も賀集産業の山口さんから相当有ったと思います。

山口さんの仏壇に手を合わせて帰る途中に「ありがとう山口一松さん。ありがとう日高の町。ありがとう日高山脈」と、車から窓を開け叫んで帰宅しました。

松本クラフトフェア

2023年5月27日～28日に開催された松本クラフトフェアに出かけてきました。新型コロナが完全に終息したわけではありませんが、50%以上の方がマスクを外して木工作家の製作した商品を手にとっている姿を見て、やっと平常時の70～80%位まで戻ってきたと感じました。作家さんの商品についてのコメントは避けますが、もっとバラエティーに富んだ作品がもっとあれば尚良いと感じましたが、3年間続いたパンデミックの傷跡は簡単に癒えないとも感じました。

ところで今回の松本訪問の目的は新しい材木屋が考える木工業と言う商いは、近い将来実現可能かと言うことです。

(株)服部商店が今直面している状況は、木工品の商いをしている方のごく一部は理解されているとは思いますが、『世界的な木材資源の保護と優良材の枯渇状態』が深刻になる事です。その対策は今服部雅章の頭の一部にはうっすらと見えていますが、図面等に置き換える所まで至っていません。しかし木工作家の目指している将来ビジョンと、大手家具メーカーが将来目指しているビジョンとも、全くバッティングしていない事だけは理解できたと思います。

新しい事業とは100%ピュアではないです。勿論松本のクラフトフェアに出しても恥ずかしくない商品を提供する事業ですが、全く参考になるビジネスモデルも存在していないことを肌で感じてきました。

クラフトフェアで感じてきたのは以下の事です。

物には歴史があり蘊蓄も必要です。この二つの事を打ち出している作家は殆どいませんでした。商品単独の価値だけで勝負している様に感じました。確かに狭い販売スペースで商品の価値・作り手の方達の付加価値等をプレゼンテーションするのは難しい作業かも知れませんが、購入の検討をされている方達に対して、もっと購入する動機を与えることが出来るのではと感じました。



強い阪神タイガース記念セール

2023年6月1日～6月30日

お得意先様向けのキャンペーン

毎週先着にて、50,000円以上（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）御買い上げの5名様に、アマゾンギフト券5,000円を差し上げます。

新規のお客様限定のキャンペーンを実施

50,000円（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）以上お買い上げの全員に、アマゾンギフト券10,000円を差し上げます。

